



## ツウウェイ評価

- 教育現場でいう評価と一般的な評価，その違いはどこにあるのでしょうか。ある人から，評価について，興味深い話を聞きました。

「評価はサービスを受ける側が行うものである」ということです。

分かりやすく，喫茶店を例にとりて説明してもらいました。

喫茶店に入るとします。お客さんは，店の雰囲気，店内のこざれいさ，店員の対応の様子などを評価します。また，コーヒーの味なんかも評価の対象になります。それらを総合的に評価して，お客さんは，その店をよい店かどうか判断するのです。この例のように，「お客さん＝サービスを受ける側」です。そのお客さんがお店について評価するのです。店の主人が，お客の身なりやコーヒーの飲み方を評価して，「もっとおいしそうに飲みなさい」と注文をつけることなんかありえません。これが，社会一般の常識だという話でした。

- さて，これを教育に当てはめてみましょう。

教育の世界では，教師はサービスを与える側であって，サービスを受けるのは子どもです。社会一般の常識に当てはめると，「サービスを受ける側＝子ども」が評価するのが当然ということになります。ところが，学校現場では，そうはなっていません。評価をするのは，サービスを与える側なのです。これは，教育という仕事の特殊性を考えたら仕方のないことかも知れません。しかし，このように一方的な評価だけというものもおかしいと思うようになりました。やはり，サービスを受ける側の権利として，教師を評価するシステムも必要じゃないかということなのです。

近頃，子どもによる評価というものが行われるようになってきました。サービスを受ける側にも評価をさせようという考えからでしょうか。

- そこで考えたこと。教師としての指導方法を改善するためにも，子どもからの評価も大事にしないでいけないのではないかと…。それを「ツウウェイ評価」と呼んでみました。塾では，教え方がまずいと生徒がつかないそうです。その厳しい現実の中で，塾の教師たちは日々自らの指導方法の改善に努力しているのです。私たちはどうでしょう。「何でも言える学級をつくろう」と言いながら，子どもから意見されると理屈でごまかしたり，逆に怒鳴ったりしていないでしょうか。言葉だけではなく，子どもの態度も見えない評価として大変重要なものです。子どもたちの私語が多い時，怒鳴りつける前に「自分の授業がおもしろくないのでは？」と，時には自分自身を振り返ってみることも大切ではないか，ということなのです。担任時代，そんなことを考え，普段から，子どもたちが自由に発言できる雰囲気を整え，また子どもたちの声に耳を傾け，子どもたちの態度から自分をふりかえる努力をしてみようと思った次第です。